



令和5年8月29日
第二管区海上保安本部

海図で見る「東北の港の昔と今」 ～第152回水路記念日企画展～

第152回水路記念日にあわせ、明治期に作成された東北の港の古海図を展示します。
3D海底地形図や最新の海洋調査技術についてもご紹介します。

我が国における近代的な海洋調査と海図作製は、今から152年前、兵部省海軍部水路局の設置により始まりました。戦後、海図の作製は、海上保安庁海洋情報部に引き継がれています。

海上保安庁では、同水路局が設置された9月12日を水路記念日と決めました。これを機会に企画展を開催し、古海図のほか、海図作製に係る海洋調査技術等についてご紹介します。

○企画展の開催場所、開催期間

東北歴史博物館内エントランスホール（宮城県多賀城市高崎1-22-1）

9月5日（火）～9月18日（月） 午前9時30分～午後5時

（東北歴史博物館の休館日を除く）

○主な展示内容

- ・東北管内の主要港における海図の変遷
- ・明治期の古海図
- ・日本周辺3D海底地形図
- ・日本近海深淺図
- ・初代水路局長 やなぎならよし 柳 樽悦たやまり さぶろうについて
- ・水路部元測量課長 田山利三郎博士について



初代水路局長 柳樽悦



昨年の開催状況

水路記念日

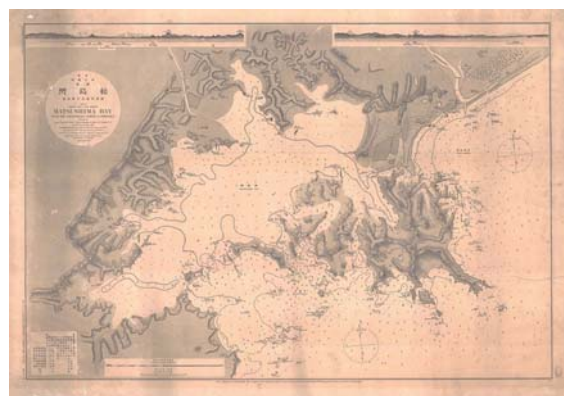
明治4年（西暦1871年）9月12日（旧暦7月28日）に兵部省海軍部に水路局（後の水路部、現在の海洋情報部）が設置されたことを記念してこの日を水路記念日としています。この水路局設置により我が国の本格的な海洋調査・海図作製が始まりました。

※海図は、船舶が安全かつ効率的に航海できるよう、水深、暗礁などの水路の状況、灯台などの航路標識、船舶の運航に必要な情報を掲載している「海の地図」です。

展示パネル等一例

海図第151号 「松島湾」

この図は、明治16年（1883年）に発行された塩釜港や松島湾の描かれた最初の海図です。塩釜港は奈良時代、国府多賀城の製塩地として始まったと伝えられています。港の建設は明治15年（1882年）に始まりました。縮尺は約1万8千分の1で、水深の単位に尋（ひろ）を用い、英国海図の図式によって、陰礁・海岸線・ケバ式の山容などで描画されています。



日本近海深淺図

水路部（現海洋情報部）の測量課長であった田山利三郎博士（宮城県村田町出身）が中心となって編集し、1952年（昭和27年）3月刊行された海底地形図。田山博士は、「日本近海深淺図」の解説論文を「水路要報」に掲載し、フィリピン海、北西太平洋の海底地形の詳細を説明しました。

この「日本近海深淺図」などを参考に、米国の海洋地質学者H.H. ヘスやR.S. ディーツが海洋底拡大説を提唱し、プレートテクトニクスに発展していきました。



日本周辺3D海底地形図

海洋情報部の大陸棚調査を主として500メートルメッシュで表現した海底地形図。赤、青の立体メガネを使用することで、3次元的に迫力ある海底地形として見ることができます。

